

開 会 午前9時58分

●水上美華委員長 ただいまから、厚生委員会を開会いたします。

報告事項であります。勝木委員からは、欠席する旨、届出がありました。

議事に入ります前に、ご挨拶をさせていただきます。

先日の本会議におきまして、厚生委員会の委員長にご選任をいただきました水上美華でございます。

厚生委員会は、皆様ご承知のとおり、本市最大規模の予算を持つ保健福祉局を所管しており、市民の安心・安全に直結する課題を多く抱えております。これから互選されます副委員長とともに、円滑かつ活発な議論ができるように委員会運営を担ってまいりたいと思っております。

また、私ごとではございますが、札幌市議会におきまして、委員長になるのは初めてでございます。議事進行に何か不手際がございましたら、特に先輩諸氏の皆様におかれましては、そのときには温かいご指導、ご鞭撻をいただければ幸いです。

委員の皆様、理事者の皆様、そして議会事務局の皆様におかれましては、お力添え、そしてご協力をお願い申し上げます。委員長就任のご挨拶とさせていただきます。

本年1年間、どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

●水上美華委員長 それでは、議事に入ります。

最初に、副委員長の互選を行います。

ご発言はございませんか。

(うるしはら委員「委員長」と呼び、発言の許可を求む)

●うるしはら直子委員 副委員長指名推薦の動議を提出いたします。

副委員長には、山田洋聡委員を推薦することの動議であります。

●水上美華委員長 ただいまの動議のとおり決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●水上美華委員長 異議なしと認め、副委員長には、山田洋聡委員が選任されました。

それでは、副委員長席にご移動の上、就任のご挨拶をお願いいたします。

●山田洋聡副委員長 ただいま互選いただきました山田洋聡でございます。

水上委員長とともに、円滑な委員会運営に努めてまいります。よろしく申し上げます。(拍手)

●水上美華委員長 次に、関係理事者の紹介及び所管事務概要の説明聴取を議題といたします。

なお、個々にご指名はいたしませんので、順次自己紹介をしていただいた後、引き続き、所管事務概要の説明をお願いいたします。

●影山保健福祉局長 初めに、本日出席しております局長職及び部長職から順次、自己紹介をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(理事者自己紹介)

●影山保健福祉局長 なお、精神保健担当部長、子ども発達支援総合センター所長、児童心療担当部長、診療担当部長及び発達医療担当部長、歯科保健担当部長は診療業務などのため、本日欠席させていただいております。ご了承願います。

それでは、私から保健福祉局の概要についてご説明を申し上げます。

まず、資料の1ページにあります局の機構についてでございます。

保健福祉局には、保健福祉局長、ウェルネス推進担当局長、医務・保健衛生担当局長を配置しております。

ウェルネス推進政策や国民健康保険の事務などはウェルネス推進担当局長が所管し、保健衛生などのほか、局内の医務関係業務全般にわたる指導は医務・保健衛生担当局長が所管しております。

局全体の機構といたしましては、総務部、監査指導室、高齢保健福祉部、障がい保健福祉部、保険医療部、ウェルネス推進部、保健所、衛生研究所の8部体制となっております。

次に、資料の3ページをご覧ください。予算についてでございます。

今年度の一般会計の歳出予算は、左上の表、上段真ん中のおり4,295億円で、前年度と比べ105億円の増となっております。

この増額要因につきましては、3ページ右側に、分野別の主な増減額を記載しておりますが、中段、障がい者の分野において差引き合計で155億円の増となっており、これは7点目の訓練等給付費が79億円の増、その上、介護給付費が34億円の増、その3点上の児童障害福祉事業費が32億円増などとなったことによるものであります。

特別会計につきましては、同じく3ページの左上の表に記載のとおり、歳出予算は前年度に比べ120億円増の4,081億円となっております。

保健福祉局といたしましては、少子高齢化が一層進展し、福祉ニーズが複雑化・多様化する中で、地域や関係機関と行政がより一層連携を深め、支援を必要とする方の現状を積極的に把握して、きめ細やかな福祉施策を展開してまいりたいと考えております。

また、各区や子ども未来局など関係部局との連携を密にし、保健福祉に関わる様々な課題を着実に解決しながら、市民サービスの向上に取り組んでまいりたいと考えております。

委員の皆様には、時機を捉えた情報提供に努め、ご意見、ご指導を賜りたいと考えております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

それでは、各部の所管事業につきまして、各部長からご説明を申し上げます。

●西村総務部長 総務部及び監査指導室の所管事業等についてご説明をさせていただきます。

初めに、総務部の機構についてでございますが、資料の1ページ目をご覧ください。

左上段になりますが、総務部は総務課、地域福祉・生活支援課、調整担当課、保護課の4課で構成されており、4月1日現在の職員数は51名となっております。このうち、係長職1名を札幌市社会福祉協議会に派遣しております。

総務部の主な業務といたしましては、局所管事務の総括調整、保健及び福祉に係る施策の総合調整、地域福祉活動の推進、低所得世帯等に対する各種給付金の給付、生活保護や生活困窮者の自立支援に関する事務などを所管しております。

続きまして、2ページをご覧ください。各区役所の保健福祉部の機構等についてご説明をさせていただきます。

区保健福祉部は、保健福祉課、健康・子ども課、保護課、保険年金課及び支援調整課で構成されております。また、地域福祉活動支援担当課長につきましては、自主運営を除く各地区のまちづくりセンター所長が兼務しております。

各課では、各種手当の給付や保健福祉に関する相談、健康づくり、国民健康保険や後期高齢者医療及び介護保険料の賦課徴収に関する業務などを行っております。

なお、相談支援業務を強化するため、令和8年4月から、10区の保健福祉課に相談支援係を新設し、高齢者や障がい者に関する相談について横断的な対応を行っております。

また、健康・子ども課には、全世代型の地区担当保健師を配置し、支援が必要な世帯を早期に把握し、課題が重度化、深刻化する前に支援につなげてまいります。

次に、資料の5ページをご覧ください。総務部の今年度の予算と主な事業についてご説明をさせていただきます。

総務部の予算額は1,354億円で、前年度と比べ

1.7%、額にして23億7,000万円の減となっております。

続きまして、主な事業でございますが、まず、上から三つ目の太字項目、社会福祉事業助成費でございますが、これは社会福祉協議会の運営費や福祉のまち推進センターの活動費などに対する補助金などございまして、5億8,000万円を計上しております。

続きまして、7ページをご覧ください。

中段の太字項目、生活保護扶助費でございますが、今年度の予算額は1,321億9,000万円で、前年度比で24億7,000万円の減となっております。

続きまして、監査指導室の概要についてご説明をさせていただきます。資料1ページをご覧ください。

まずは監査指導室の機構についてですが、今年度から総務部長が監査指導室長を兼務する体制となっており、4月1日現在の職員数は10名となっております。

主な業務といたしましては、社会福祉法人の設立認可事務及び指導監査のほか、老人福祉施設、障がい者支援施設、児童福祉施設、救護施設、介護老人保健施設等の指導監査の総括を行っております。

監査対象につきましては、4月1日現在で社会福祉法人が199法人、また、これらの法人等が運営する施設が601施設でございまして、合計800の法人及び施設を年1回から3年に1回の周期で指導監査を行っております。

●足立高齢保健福祉部長 高齢保健福祉部の概要についてご説明させていただきます。

初めに、機構についてですが、資料の1ページ左側中段をご覧ください。

高齢保健福祉部は、高齢福祉課と、介護保険課に認知症支援・介護予防担当課長、事業指導担当課長を置く2課2担当課長の体制で、4月1日現在の現員数は66名です。

次に、主な事業についてですが、高齢者の生き

がい支援や介護保険制度に関連する事務、認知症支援、そして介護施設や事業所の指導等を担当しております。

次に、今年度予算における予算の概要についてご説明させていただきます。

まず、一般会計からご説明をいたします。お手元の資料7ページをご覧ください。

高齢保健福祉部の予算額は、下段にありますとおり約409億円で、前年度と比べ0.5%、約2億2,000万円の増となっております。

主な事業ですが、8ページの太字項目一番上の老人福祉費のうち、5項目めに記載の高齢者健康寿命延伸費でございます。

本事業は、市民の健康寿命延伸を目指して、高齢者を含む幅広い世代の健康づくりを促進するため、令和8年度から札幌健康アプリ「アルカサル」を本格実施するものであり、この予算としまして8億6,000万円を計上しております。

続きまして、介護保険会計についてご説明いたします。29ページをご覧ください。

予算総額は、上段にありますとおり、1,884億円で、前年度と比べ5.5%、約99億円の増となっております。これは、要介護認定者の増加や介護報酬改定に伴う介護サービス単価の増などによるものであります。

次に、主な事業ですが、32ページの太字項目の1項目め、包括的支援事業費の1項目めに、地域包括支援センターにおけるフレイル改善や認知症支援を強化するための専門職員の配置を全区に拡充する経費を含め、約18億8,000万円を計上しております。

●木下障がい保健福祉部長 障がい保健福祉部の概要についてご説明させていただきます。

初めに、機構についてですが、資料1ページの左下からその右横の列をご覧ください。

障がい保健福祉部は、障がい福祉課、障がい者更生相談所、精神保健福祉センター、子ども発達支援総合センターの地域支援課、子ども心身医療

課、児童心理治療課、自閉症児支援課で構成されており、部全体の現員数は4月1日現在で249名となっております。

障がい保健福祉部の主な業務といたしましては、障害福祉サービスの給付事務など、障がい福祉施策全般の推進、障がい者更生相談所、精神保健福祉センター及び子ども発達支援総合センターの運営に関する事務などを所管しております。

次に、今年度の予算の概要と主な事業についてでございます。11ページをご覧ください。

障がい保健福祉部の予算につきましては、約1,595億円でございます。前年度と比べて11%、約155億円の増となっております。

主な事業についてですが、まず、13ページの上から7項目め、指定障害福祉サービス事業者等運営指導委託費約6,500万円でございます。これは障害福祉サービスの質の確保と給付費算定の適正化を進めるため、北海道が指定する指定事務受託法人に対しまして、国の指針が示すおおむね3年に一度の頻度での運営指導を委託するもので、令和8年度から本格実施するものでございます。

次に、15ページの太字項目で、下から3項目めの介護給付費約447億円、その次の太字項目の訓練等給付費約530億円でございます。

これらは、居宅介護や共同生活援助など、障がいのある方が自立した日常生活や社会生活を営むために、障害者総合支援法に基づいて提供するサービスの給付費となっております。

●小野寺保険医療部長 保険医療部の概要につきまして、ご説明させていただきます。

初めに、機構についてですが、資料の1ページをご覧ください。

保険医療部は、1課長2担当課長体制でございまして、職員数は44名となっております。ほかに、北海道後期高齢者医療広域連合へ部長職1名を含む10名の職員を派遣しているところです。

主な業務ですが、国民健康保険、国民年金、後期高齢者医療制度、医療費助成制度を所管してお

ります。

次に、今年度の主な事業と予算の概要についてですが、まず一般会計についてご説明いたします。18ページをご覧ください。

予算額は約706億円でありまして、前年度より約7,000万円、0.1%の減となっておりますが、ほぼ横ばいの状況となっております。

続いて、二つの特別会計についてご説明いたします。26ページをご覧ください。

国民健康保険会計についてですが、予算総額は約1,785億円でありまして、前年度より約38億円、2.1%の減となっております。予算減の主な要因ですが、同じページの太字項目、上から3番目の療養給付費におきまして、被保険者数の減少などによって約22億円の減となったことなどによります。

最後に、後期高齢者医療会計についてご説明します。28ページをご覧ください。

予算額は約412億円で、前年度より約58億円、16.5%の増となっております。予算増の主な要因ですが、同じページの太字項目、上から3番目の保険料負担金におきまして、保険料の見直しに伴い収納額の増を見込んだことから、同連合に納める負担金が約59億円増と見込んでいるためでございます。

●高田ウェルネス推進部長 ウェルネス推進部の所管事業等についてご説明させていただきます。

初めに、機構についてですが、資料の1ページ、左から3列目をご覧ください。

ウェルネス推進部は、ウェルネス推進課、医療政策課、施設管理課、里塚斎場の4課体制で、4月1日現在の現員数は64名となっております。

主な業務といたしましては、市民の健康寿命延伸に向けた取組の推進、救急、地域医療体制の整備及び斎場、墓地の維持管理などを所管しております。

次に、資料の19ページをご覧ください。今年度

予算の概要と主な事業についてご説明いたします。

ウェルネス推進部の予算額は約59億円で、前年度と比べ2.2%、約1億3,000万円の減となっております。

主な事業についてご説明いたします。

初めに、19ページのウェルネス推進部の一番上の項目、救急医療推進費でございますが、救急医療体制の確保に関する補助のほか、指定管理により運営しております夜間休日急病センターの診療業務などの経費といたしまして、約18億円を計上しております。

次に、20ページ、太字項目の2項目め、健康づくり推進費でございますが、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンにおいて定めるまちづくりの重要概念であるウェルネスの推進に向けて、企業や大学等と連携した健康意識の醸成や健康行動の促進、地域の健康づくり活動の支援、がんや歯科口腔保健の対策などに取り組む経費といたしまして、約18億4,000万円を計上しております。

次に、21ページの太字項目一番下の火葬場運営管理費でございますが、市内に2か所ございます火葬場の運営経費のほか、将来の火葬件数の増加に対応した、持続可能な火葬場の運営体制構築に向けた検討などに要する経費といたしまして、約17億2,000万円を計上しております。

●三浦保健管理担当部長 保健所関係についてご説明いたします。

初めに、機構についてでございますが、資料の1ページ目、3列目中段から一番右の列の中段ぐらいまでをご覧ください。

保健所は、令和8年度も前年同様、保健管理課、医務薬事課、感染症総合対策課、食の安全推進課、生活環境課、動物愛護管理センターの6課体制で、4月1日現在の現員数は137名となっております。

次に、主な業務についてでございますが、難病患者への医療費助成、病院等の許認可や立入検

査、予防接種業務や結核、エイズ等の感染症対策、動物愛護管理センターの運営管理、飲食店、食品製造業、旅館、公衆浴場の許可や指導など、市民生活に関連の深い事業を幅広く担当しております。

次に、令和8年度の予算についてでございますが、資料の22ページ目までお進みください。

保健所の予算額は約171億円で、前年度と比べ12.8%、約25億円の減となっております。予算減の主な要因といたしましては、新型コロナウイルス感染症予防接種費の直近の接種者数を反映させた予算編成によるものとなっております。

主な歳出についてでございますが、同じページの保健所の太字項目三つ目、感染症予防費でございます。予防接種等の感染症対策に係る経費として、約62億円を計上しております。

次に、23ページの一番上の項目、その他予防衛生費のうち、1項目めにあります難病患者支援対策費でございます。難病患者への医療費助成に係る経費として、約89億円を計上しております。

●吉津衛生研究所長 衛生研究所の概要についてご説明いたします。

初めに、所の機構についてであります。資料の1ページ右側の下段をご覧ください。

衛生研究所は保健科学課、環境科学課の2課体制で、4月1日現在の現員数は34名でございます。

当所は、保健衛生に関する検査、試験、調査及び研究を行い、公衆衛生の向上を図ることを目的として設置しております。

次に予算についてであります。24ページをご覧ください。

今年度の予算額は約2億3,000万円となっております。前年度と比べて21.1%、約6,100万円の減となっております。

各課の主な事業でございますが、保健科学課では、新型コロナウイルスなどの感染症検査や食中毒の原因となる微生物検査、エイズ抗体検査など

を通じた市民の健康危機管理、また、新生児の様々な病気の早期発見を目的とした集団検査を担うとともに、食品中の残留農薬や遺伝子組換え食品の検査などを通じて、食品の安全確認を行っております。

環境科学課では、河川水の水質検査や大気中の有害物質検査など、環境汚染の監視に関する検査を行っております。さらに、これらの業務に関連した調査研究を行うなど、保健衛生行政の科学的かつ技術的中核機関の役割を担っております。

●水上美華委員長　ただいまの説明に対して質疑はございませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

●水上美華委員長　なければ、質疑を終了いたします。

以上で、委員会を閉会いたします。

---

閉 会　午前10時27分